

5月第三主日。国と教会と個人の再建のみ業について、ネヘミヤ記から学んでいきましょう。

#### A. (1～3節)

- ①その時代 ペルシャ帝国が支配する時代です。紀元前538年にペルシャがバビロンを倒して統治を始めてから何代かの王が支配をしました。紀元前404年から358年を統治したのが、ネヘミヤの時代のアルタシャスタ王です(2章1節参照)。この人は一般の世界史ではアルタクセルセス二世となっています。その20年というのですから、BC384年のことです。1節にシュシヤンの城とありますがこれはヘブル語読み。ペルシャ読みではスサ。スーサと発音されることもあります。今日のイラン西部です。
- ②ネヘミヤ 彼はユダヤ人です。しかし、捕囚によりペルシャに住んでいました。彼は「献酌官」だった(11節)とありますが、王に最高の信頼を得ていた人といえます。なぜなら、王にお酒をつぐ人というのは毒を盛ることが出来る人ですが、それを絶対にしないという信頼を得ていたのです。
- ③ハナニたちの報告 ユダヤからの報告がハナニと数人の者たちによってなされました。すると、エルサレムに在る捕囚から残った者たちは非常に困難のなかにあり、軽蔑や迫害をうけているということでした。さらに、エルサレムの城壁はくずされ、その門は焼き払われたままというのです。ネブカドネザル王によって攻撃された時に損傷しただけではなく、その後にもいろいろな痛手を受けていたのだと考えられます。

#### B. ネヘミヤの祈り(4～7節)

- ①天の神の前に祈る(4) ネヘミヤの心の中は張り裂けんばかりでした。彼は「座って泣き、数日の間、喪に服し、断食して神の前に祈った」(4節)のです。外国にいれば余計に気になる故国のことでもありますが、ネヘミヤは格別にこのことに重荷が与えられたのです。そして、主に向かって「天の神」「主」「大いなる神」「恐るべき神」「主の契約を守る者にいつくしみを賜る神」(5節)とできるだけ連ねて呼びかけました。
- ②叫び その上で、彼はもう必死になって願いました。それは叫びでありました。祈りとは魂の叫びです。苦しい時にも、そのままありのままを祈ってよいのです。「この祈りを聞いてください。」
- ③悔い改め そうした中で、ネヘミヤのうちに出来たのは「悔い改め」でした。それは自分の罪はもちろんのこと、この民が犯した罪を告白したのです。「モーセを通して与えられた命令も、おきても、さだめも守りませんでした。」(7節)と。そうです。人間は神を侮り、平気、平気とやりたい放題するのです。ああ誰あろう。胸に手をおいていけば、私がそれです。あなたがそれです。

#### C. ああ、主よ、どうぞ。(8～11節)

- ①「散らす」との言葉(8) 御言葉は必ず成就するのです。かつてモーセを通して主はこのように言われたのです。「あなたがたが不信の罪を犯すなら、わたしは諸国民の間に散らす」と。これは8節の脚注にもあるように、レビ記29:23や申命記4:27にあるのです。その御言葉が実現して、ユダヤの民は散らされて外国の地に生きる民が大勢いるのです。主の御言葉が確かであることをネヘミヤは認めています。
- ②「連れ帰る」との言葉(9～10) 一方でネヘミヤは更なるお言葉があることも知っていました。「あなたがたが立ち返り、わたしの命令を守り行なうなら、散らされた者が天の果てにいても、そこから彼らを集め、選んだ場所に連れてくる」という趣旨で、さらに「捕囚されている者たちはあなたの偉大な力とその力強い御手によって、贖われたあなたのしもべ、あなたの民です」と訴え、かつての出エジプトの出来事いただいたユダヤに民であることを強調したのです。これは申命記20章1～5にあったのです。ネヘミヤが外国の地であって、切実に、懸命になって聖書を読んでいたのですね。
- ③このしもべにあわれみを(11) 「ああ、主よ」と呼び、「どうぞ、このしもべの祈りと、あなたを慕うしもべたちの祈りに、耳を傾けてください！」と叫びました。そして「どうぞ、今日、このしもべに幸いを見せ、あわれみを受けさせてください。」と願い求めたのです。

#### 結論

私たちには苦しい時があります。自分のことで、家族のことで、教会のことで、国のことで……。あなたも今苦しみの中にあるかもしれません。もう、どこにも持っていきようのない苦しみがあります。のた打ち回るようなこともあるでしょう。最初は人に向かうでしょう。でも、ネヘミヤがそうしたように、そのような時に私たちは主に向かうしかないので。もはやほかに道はなく、主の懐に飛び込んで、申し上げるしかないので。そして、ネヘミヤがしたように「悔い改める」のです。ネヘミヤだけでなく、聖書の民がしてきたことです。そして、ネヘミヤは必死に主の前にくいさがりました。御言葉にこうあったように、どうぞこの民をあわれんでください！と。必死な心からの真実の祈りを主は受け止めてくださいます。マタイ7:7、ヨハネ16:24、Iヨハネ5:16、エレミヤ33:3等など。詩篇にはその必死な祈りがたくさんあります。あのハンナも注ぎだして祈りました(Iサムエル1章)。どのように祈ったら良いかわからなくても、主はとりなしてください(ローマ8:26)。今、困難の中にある、この国も、あるいは教会も、あるいは私たちも、天の神の前に出ましょう。